

市長は、11月から12月にかけて、市内の小学校を5校回り、児童と給食を取りながら懇談を行いました。ある小学校で児童と話した感想について政策秘書課職員と話をしました。その一部を紹介します。

悩みは自ら動いている証拠

学校を訪問した際、児童会役員の子どもたちと話をさせてもらいました。子どもたちはそれぞれの悩みを私に話してくれました。

「児童会では学校の代表としてまとめています。まとめようとするが無視されることもあります。まとめるコツやみんなをやる気にさせるいい言葉はありますか？」

「児童会でいろんな企画を行っているのですが、参加者が少なくて困っています。参加者を増やすにはどうしたらいいですか？」

「あいさつ運動を行っているのですが、無視されることがあります。あいさつを返してもらうにはどうしたらいいですか？」

この悩みを聞いて私は、子どもたちが当事者となり、率先し動いていることにとても感心しました。

この子どもたちは、自ら動いたことにより具体的な課題を見つけ、どうにかしようと解決策に悩んでいます。学校という小さな社会ではありますが、全体を意識し、自ら動いた先にある悩みまで抱えていたのです。

この質問に私は、「自分の心でさえ思いどおりにならないのに、ほかの人の心を思いどおりにできるわけがありません。うまくいかないことは仕方ないことだと思って悩まないことが大切です。自分が他人に優しくすることでおのずとみんなもついてくるでしょう。」「市役所でも悩んでいる問題だよ。まずは友達に声をかけてみよう。その友達がまた友達に頼んでみよう。そうやって人を増やして、企画に参加するだけでなく、企画の運営も一緒にみんなを巻き込んで行くとやりがいもでるし、楽しむこともできると思うよ。」と伝えました。

後日、話をさせてもらった児童会役員の子どもたちから作文をいただきました。「市長の話聞いて励みになった」、「教えてくれた方法でやってみようと思います」など、前向きな言葉が書いてありました。これからたくさん悩み、課題にぶつかることもあると思いますが、悩みなどが出るのは自らが動いている証拠です。今後も子どもたちには恐れず自ら動き、悩み、考えることを通して成長して行ってほしいです。そして大人になってもその心を忘れないでいてほしいと思います。

～市長の懇談の話を聞いて～

私も児童会役員の子どもたちと市長が話しているのを聞いていましたが、質問内容が具体的でまじめであることに驚きました。この子たちは、真剣に取り組み、悩んでいることが伝わり、市長も真剣な回答をしていました。市長の話を聞いた子どもたちの顔はすっきりとしている子もいれば、やる気に満ち溢れている子もいました。この子たちを見るとさらにいい学校、いい社会になるだろうと率直に感じました。